

発

「シナリオのない防災訓練」ともいわれています。大地震が起こると、どこで、どのような被害が発生しているのか分かりません。避難所へ向かう途中で災害現場に遭遇した参加者は、何をしたらよいのか、何ができるのかを一人一人が臨機応変に判断し、行動しなければなりません。まさに、災害発生時どのような行動をとればよいかを体験できる訓練といえます。

また、消防署員の指導による応急処置や応急担架作製訓練、AED（自動体外式除細動器）実技講習など、市民が実際に体験できる訓練も実施されました。

今

今回の総合防災訓練は、防災関係機関や事業所、住民が連携して実践的な訓練を行うことにより、防災意識を高め、地域の災害対応能力の向上を図ることを目的として実施しました。いつ起こるか分からない災害。それに対応するかを考える上で、こういった訓練に参加し、体験することも大切ではないでしょうか。

南区総務企画課の千葉正志地域安全担当係長はこう語ります。「災害の発生は防げませんが、住民の皆さんと関係機関との連携や協力により、被害を軽減することはできます。今後も、こうした訓練を通じて地域の連携を深め、災害に強い街づくりをしていきたいと思います。」

今回の訓練で実施した主な発災対応型訓練



初期消火訓練

消火器やバケツリレーによる消火訓練。あわてず、火元を狙って消火しましょう。



避難誘導訓練

障害物を避け、家族や近隣の人たちを避難所へ誘導する訓練。お年寄りや障がい者の方の手助けも忘れずに。避難中の事故やけがに注意しましょう。



▲盲導犬とともに視覚障がい者を誘導する澄川中学校の生徒



倒壊建物救出救護訓練

倒壊した建物の中に取り残された人を救出し、応急処置を行う訓練。のこぎりやジャッキなどの器材を使用することもあるため、けがや二次災害に遭わないように注意しましょう。

